



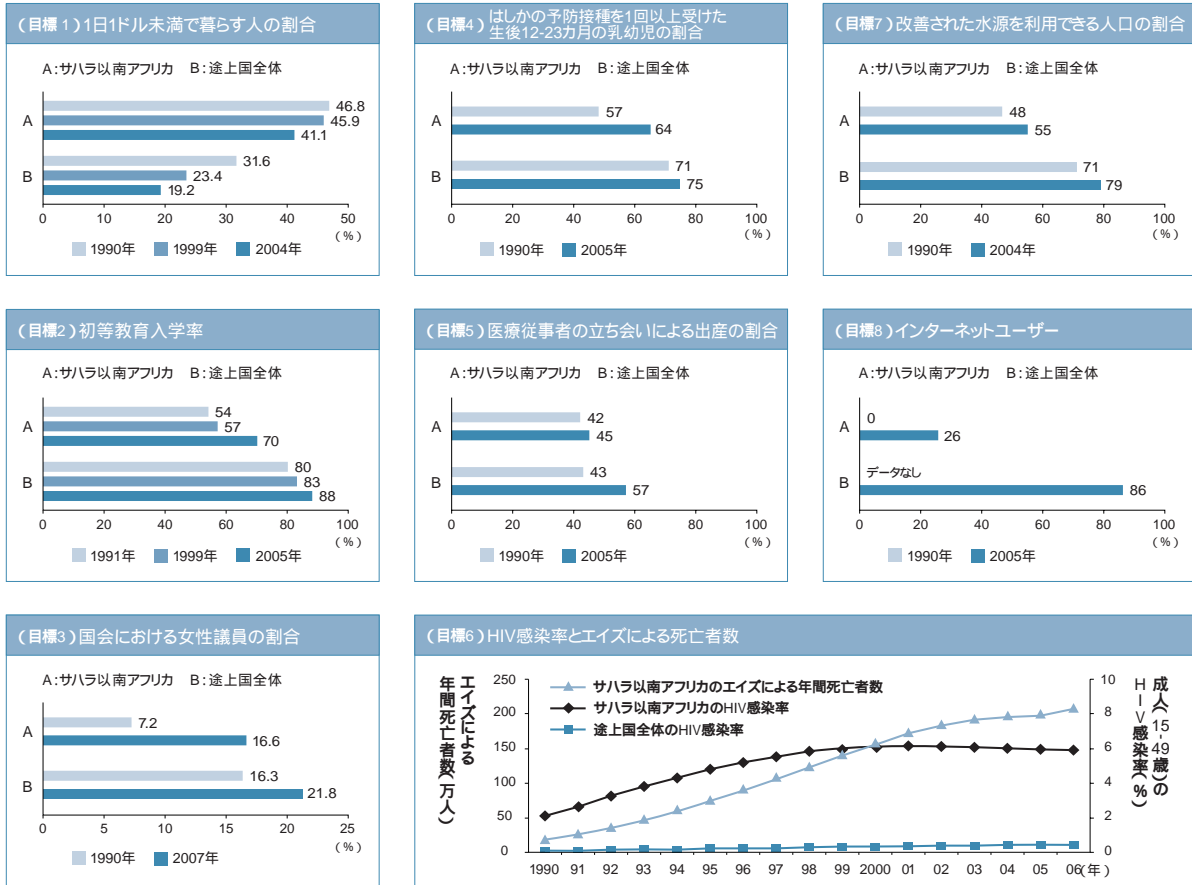
参考：世界銀行「AFRICA DEVELOPMENT INDICATORS 2007」、国連開発計画（UNDP）「Human Development Report 2007/2008」、ほか

アフリカの変化

27

B サハラ以南アフリカとミレニアム開発目標 (MDGs) DATA

出典：国際連合「Africa and the Millennium Development Goals 2007 UPDATE」、国連開発計画 (UNDP) 「Human Development Report 2007/2008」



危ぶまれるアフリカのMDGs達成

国際社会は2000年に、2015年を期限とする8つのミレニアム開発目標 (MDGs) を定めた。各目標にはそれぞれ達成度を測る複数の指標が設定されている。ここでは1つの目標につき1つの指標を取り上げ、その変化を示す。

貧困を語る時、1日1ドル未満で暮らす人々の割合が引き合いに出されるが、サハラ以南アフリカのその割合は04年時点で41.1%だった。15年までにこの割合を1990年の半分に減らすという目標を達成するためには、現在の貧困削減のペースを倍増させなければなら

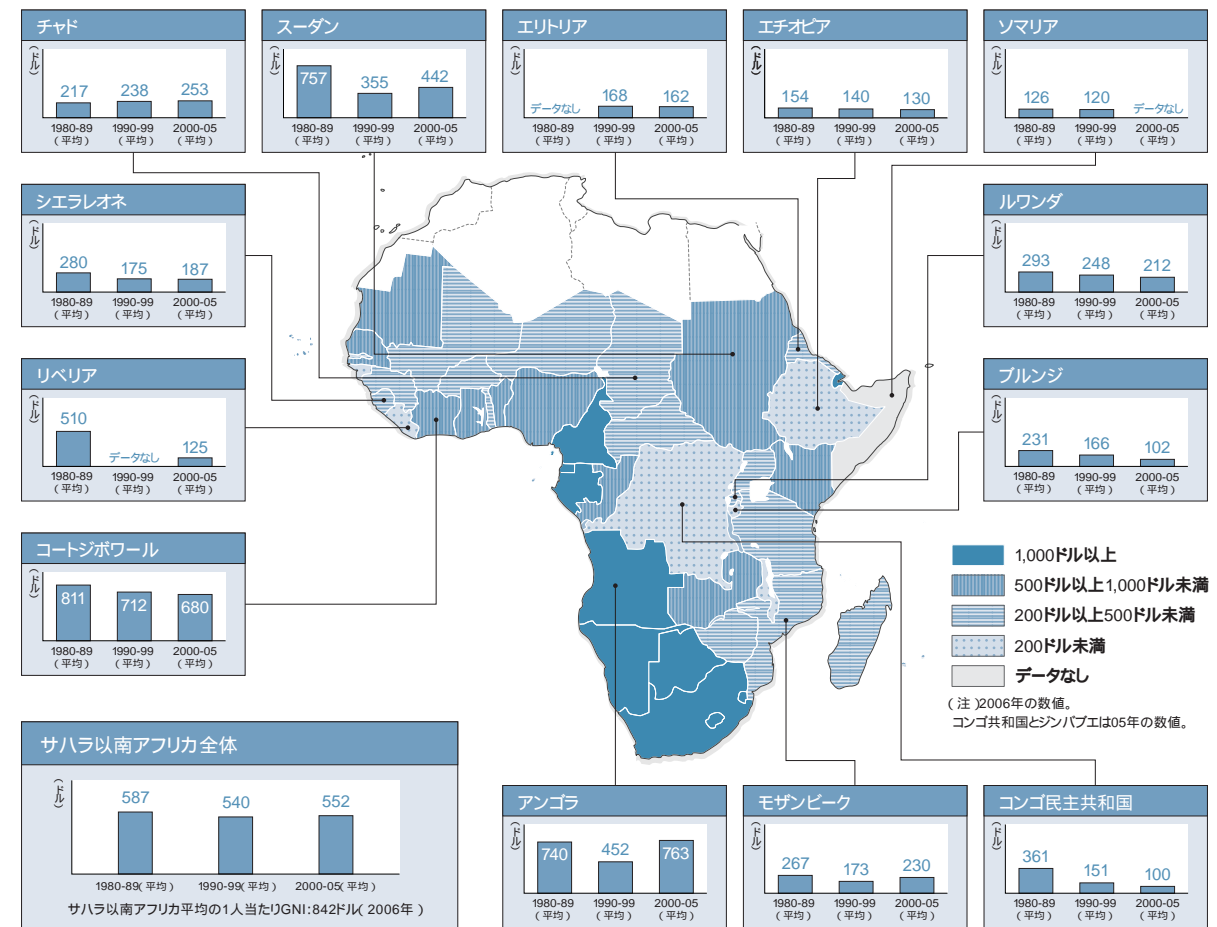
ない。そのほかの指標も改善してはいるが、まだまだ努力が必要だ。特にHIV / エイズは深刻だ。高い人口増加率の割にHIV感染率はやや下がっているものの、死亡者数と女性の感染者は増えている。

MDGsの中間地点を迎えた今、このままではサハラ以南アフリカの目標達成は見込めそうにない。援助国には05年に約束した「2010年までにアフリカ向け援助を倍増させる」の具体的な計画を示し、実行することが求められている。

グレンイーグルス・サミットでの約束。日本政府は「今後3年間でアフリカ向けODAを倍増する」と約束した。

A サハラ以南アフリカの1人当たり国民総所得 (GNI) と紛争経験国の変遷 DATA

出典：世界銀行「AFRICA DEVELOPMENT INDICATORS 2007」、ほか



平和であることが成長の前提

世界銀行はアフリカ53カ国のうち48カ国をサハラ以南アフリカに分類している。1人当たり国民総所得 (GNI) による分類では、875ドル以下の低所得国54カ国中34カ国がこの地域の国々だ (残りはすべて中所得国)。

2006年のデータによると、この地域で1人当たりGNIが最も高かったのはセーシェルの8,650ドル。8,250ドルの赤道ギニア、5,900ドルのボツワナがそれに続く。ワースト3は100ドルのブルンジ、130ドルのコンゴ民

主共和国、140ドルのリベリアで、過去の紛争が国の発展に影を落としているように見える。他方、紛争後の復興に取り組むアンゴラ、モザンビーク、スーダンなど、石油や鉱物資源の輸出増加による経済成長を背景に、収入を伸ばす紛争経験国もある。

近年5%以上の成長を続けるアフリカ諸国がさらに元気になるため、今こそ国際社会の支援が求められる。同時に、アフリカ自身にも、成長の加速に向けて、政治の安定や平和の定着のための一層の努力が必要とされる。